

令和 8 年度 獨協医科大学大学院医学研究科入学者選抜試験
外国語（英語）試験

【問題 1】

・意図

「自己免疫疾患」に関する総説を出題文として採用した。問題全体を通じて、英語論文の内容を把握する力、要点を的確に捉える力、具体的なデータや事実から筆者の主張や含意を導く論理的読解力、そして日本語で簡潔に記述する能力を評価する。

・解答

〔設問 1〕

自己免疫疾患とは、免疫系が誤って自己の組織を外敵とみなし攻撃してしまう病態であり、免疫調節機構の破綻によって生じる疾患の代表例として、1 型糖尿病、全身性エリテマトーデス、関節リウマチが挙げられている。

〔設問 2〕

independent of

〔設問 3〕

制御性 T 細胞は病態に応じて二面性をもつ。すなわち、機能不全や欠損は自己免疫を引き起こす一方で、過剰な抑制は腫瘍免疫を阻害し、がんの進行を助長する。

〔設問 4〕

2003 年、坂口氏は FOXP3 遺伝子が制御性 T 細胞の分化と機能に不可欠な転写因子をコードしていることを示した。FOXP3 が欠損すると、これらの細胞は形成されないか、抑制機能を失い、免疫応答が制御不能となる。

〔設問 5〕

FOXP3 と Treg の発見は、免疫寛容の機構解明を通じて自己免疫疾患やがんの新しい治療標的を提示した。Treg 活性の強化は自己免疫疾患治療に、抑制はがん免疫療法の増強に応用されつつある。

【問題 2】

・意図

医療の基盤をなす「栄養」に関する比較的新しい総説を出題文として採用した。受験者の専門分野が多岐にわたることを踏まえ、特定の職種や専門分野に偏ることなく、公平性を保てる内容を選定するよう配慮した。

本学の教育理念を踏まえ、医学・医療に関する文献を正確に読解し、その内容を論理的に説明・考察する能力を評価することを目的とした。設問は受験者の使用言語に応じて構成しているが、いずれも文献の理解力及び論理的思考力を評価する点は共通している。

・解答

〔設問 1〕

認知症は加齢に伴う自然な現象ではなく、年齢を問わず発症する可能性があるが、主に高齢者に影響を及ぼすため、年齢は認知症における最も重要な独立した危険因子とされている。

〔設問 2〕

（その）中でも、バランスの取れた食事は、認知症予防の重要な戦略のひとつと考えられている。

〔設問 3〕

（DASH 食は、）高血圧の予防と治療を目的として開発された。

〔設問 4〕

（地中海食は、）乳製品、赤身肉・加工肉、ワインの摂取を控える食事法である。

〔設問 5〕

（MIND 食は、）認知機能の低下を遅らせ、認知症予防に役立つとされている。